

* 第17号 MINERVA ベンチャー会員 上場記念 *

去る11月28日(水)、ベンチャー支援機構 MINERVA のベンチャー会員企業の「筑波精工株式会社」が東京証券取引所 Tokyo Pro Market に上場いたしました。筑波精工社は静電吸着システムの開発・製造・販売を行っている企業です。今回の通信では、傅社長や社員の方に上場に至るまでのお話をお聞きしましたのでご紹介させていただきます。



代表取締役社長 傅 實菜 氏

【会社概要】



会社名：筑波精工株式会社 (URL: <https://www.tsukubaseiko.co.jp>)

代表者：代表取締役社長 傅 實菜 氏

所在地：栃木県河内郡上三川町大字上蒲生字願成寺 2168-10

設立：1985年6月27日

資本金：9億700万円

事業内容：静電吸着システムの開発・製造・販売

I、傅社長のお話

① 上場後の今の心境

上場時の資金調達 8 億円強をやり切ったという安堵感と、これからの事業展開の条件が揃ったところでの、事業展開をやり切るぞという意欲と責任感が大きいです。やりたいことがやれるという、本当に人とその環境に恵まれたことに対する感謝があります。

② 上場までの苦労話

研究開発型ベンチャー企業は、最先端、最前線で生きていますので、チャンスをものにするタイミングとスピードが非常に重要です。そういった意味で、資金を調達することに非常に苦労しました。資金調達にかなりの労力と時間を費やしますので、進めるべき事業をやりながら資金調達をすることが非常に大変でした。

③ MINERVA のベンチャー会員企業への励ましの言葉

ベンチャー企業の資金調達の新たな道として、東京プロマーケットという市場を利用する道を切り開きました。この市場を活性化させて、必要な資金を必要なタイミングで調達し、健全で爆発的な成長の可能性があると思います。日本には、世界オンリーワンテクノロジーがまだまだ潜在していると思います。そのテクノロジーを世に出す努力を尊敬し、応援しています。

II、社員代表者のお話：社長室長 大貫篤志 氏

① 上場後の今の心境

上場することで、当社の世界オンリーワンテクノロジーが、世の中に認められたという喜びがあります。ここから本当にコミットを達成させ続けることにより、本物として認知させることへのやりがいと喜びがあります。

② 上場までの社員としての苦労話

当社の静電チャックというテクノロジーや、東京プロマーケットという市場が、世間一般での同意、常識で評価されているので、その誤った評価を正常に評価してもらうことにとてつもない労力が必要だった。世間の常識というものにすごい負のパワーといじめにも近い凝り固まったものを感じ、本当に諦めや敗北感に苛まれ続けました。



11月28日(水) 東京証券取引所 Tokyo Pro Market 上場

III、御祝いの言葉

(株) TNP オンザロード 代表取締役社長
(NPO法人ベンチャー支援機構 MINERVA 理事)

山下 勝博

これまで何度か MINERVA のビジネスプラン発表会にも出て頂き、積極的に事業機会を作りに行かれる傅社長のチャレンジ精神、オープンマインドが今回の上場に結びついたのではないかと思います。

世界に通用する技術を持ち、ようやく世界が求めるようになってきた昨今、研究開発型ベンチャーには厳しい資金調達環境で、東京プロマーケット上場を選択された判断は、常に限りない可能性を信じて挑戦する傅社長ならではの道だと思います。

本当におめでとうございます。